



Dynamac

www.dynamac-gr.co.jp

ダイナパック株式会社

「包む」に挑む
「包む」を創る

目指すは“永遠企業” 果たすべき役割は“世の為、人の為”

ダイナパック(株)は、2005年大日本紙業(株)と日本ハイパック(株)が合併して誕生しました。互いの強みを学び、磨き上げ、One Companyとして融合することにより包装業界にあって存在感のある会社として成長してまいりました。

IT、AIの進化に加え、コロナウイルスの感染拡大により社会や人々の行動は大きく変化しつつあります。又、サステナブルな社会を実現する為に企業が負う責任は益々重くなっています。このような状況下において、ダイナパックは、事業活動を通じて“世の為、人の為”になることを果たすべき役割として認識し、社会や顧客から支持され続ける“永遠企業”を目指します。今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

ダイナパック株式会社
代表取締役社長

齊藤 光次





Our Mission

パッケージを通じて社会のあらゆるニーズに 応え、社会の役に立つ企業を目指します。

Our Vision

「ダイナミックな事業展開で、21世紀に勝ち続ける企業」
それがダイナパックの目標です。

1 発展し続けることにより、
顧客・株主・社員を含めた
社会全体に貢献していきます。

2 地域社会と共に繁栄する
存在感のある
企業を目指します。

3 青果物・飲料・加工食品分野から
電気・機械器具まで、
包装・物流のあらゆるニーズに
対応していきます。

4 生産面での技術力を高めて、
どこにも負けない
競争力をつけます。

Our Value

「人に、モノに、地球にやさしい企業」
それがダイナパックの哲学です。

環境や社会との共存共栄が、ますます求められる時代です。地球環境はもちろんのこと、顧客・株主・社員を含めた社会、そして私たちが包装するひとつひとつの製品にいたるまで、企業をとりまく全てとの調和を考えることが、ダイナパックの基本哲学です。



- 「人」にやさしい
誰もが利用しやすいパッケージデザイン(=ユニバーサルデザイン)を追求します。地域社会とともに発展し続けることで、企業価値をいっそう高め、顧客・株主・社員をはじめとするステークホルダーの皆様のご期待にお応えします。
- 「モノ」にやさしい
商品をやさしく保護する役割を超え、商品の付加価値を高める、より美しく、機能的かつ経済的なパッケージを創造します。
- 「地球」にやさしい
地球環境保全の観点に立ち、環境にやさしい製品と技術の開発に努めます。

ダイナパック・グループは、
ニーズに合った製品を提供するために、
各分野のプロが力を合わせます。

営業 お客様のニーズを製品に反映させる営業部門

business

営業部門は、青果物・食品・家電・精密機器など業種の異なる多様なお客様のニーズを把握し、社内の各部門のプロと共同で最適な提案を行います。また、クオリティ、コストやデリバリーの管理はもちろん、包装資材にとどまらない、物流上の課題にも応えられるお客様のパートナーを目指しています。



企画開発 新しいパッケージの可能性を探る企画開発部門

planning

パッケージは、ニーズに合った機能と商品の価値を高める、重要なセールスツールです。企画部門は、素材から生産工程までを熟知し、構造デザインとグラフィックデザインの両面から提案します。包装に適した素材の研究を通じて、新製品の開発やオリジナルのソリューションにも積極的に取り組んでいます。



包装設計 アイデアをカタチにする包装設計部門

packing design

設計開発部門では、高い設計技術力により梱包才数、梱包工数・物流コストの削減を実現する最適なパッケージシステムを提案します。また、フィルム包装から個装、内装、外装箱、緩衝材までの設計技術力、長年培ってきた豊富なノウハウを活かし、お客様の包装に関するすべてのニーズにお応えしています。



生産 技術と設備でニーズに応える生産部門

production

製造業にとって「モノづくり」は原点です。その中心となる生産ラインの安定運転はもちろん、生産計画から出荷までの広範囲の生産業務を担当しています。製版から印刷、加工の工程において、最新の生産技術、生産ラインを配備し、高品質で低コストな製品をお届けするために貢献します。



グルアー



グラビア校正機



コンピューター化された製版システム



最新のトムソン機

品質管理 常に優れた品質を維持する品質管理部門

quality control

品質管理とは、お客様が安心して使えるために必要な力です。求められるニーズにあった製品を厳しいチェック体制でお客様にお届けすると同時に、社内の各部門やお客様からの情報を蓄積し、品質情報としてフィードバックさせ、より信頼性の高い製品をお届けするために努力しています。



大切なモノだから、大切に包む。 ニーズに合わせた多彩な製品群。

段ボール 包装資材の主力を担う段ボール製品群

corrugated fiberboard



軽量かつ強靱、そして低コストな段ボール製品。波形の中芯原紙がクッションとなり、箱の中の商品へのあたりが柔らかいので、商品を傷めにくい特性も備えています。また、段ボールは、その大半がリサイクルされ、地球環境にも配慮した省資源資材です。段ボール素材の加工により、耐水性にも優れた製品もラインナップしています。

印刷紙器 美しさと機能でアピールする、印刷紙器

paper container



印刷紙器は、機能面で優れた包装資材であると同時に、店頭で消費者に購入をアピールするものでなくてはなりません。デザインと機能で、他商品との差別化を実現し、より印象的、個性的な印刷紙器を創造していきます。

軟包装材 安全性と品質の高い軟包材

flexible packaging



食品や薬品などを美しく包装しているのが軟包装材。コンピュータによって、温度、湿度など、目に見えない部分まで入念に管理された工場生産しています。最新鋭の設備を駆使し、その安全性と高品質は高く評価されています。

段ボール緩衝材 振動や耐荷重に優れた緩衝材

corrugated fiberboard cushion



内容物を外部からの衝撃・振動から保護する為に段ボールシートを打ち抜き、組立加工をすることで商品を安全に輸送することが出来ます。包装される商品の形状・物流条件に合わせて最適な段ボール緩衝材を提供します。使用後は段ボール製のため段ボール古紙としてリサイクルできます。

物流資材 軽量化による物流コストの低減に段ボール製パレット

logistics material



段ボールでできているので、重さは木製パレットの約1/4。片手でもてるほどの軽さです。取扱いが楽なだけでなく、物流コストも軽減されます。強靱な構造体となっているので、重量物の輸送にも対応可能です。燻蒸処理不要。

パルプモールド(ハイモールド)

paper mold (high molded)



パルプモールド(ハイモールド)は段ボールや新聞の古紙を主原料として製造する紙製の成型品です。高い成型精度とリブ構造により、化成品緩衝材に劣らないクッション性と耐荷重性があります。積み重ねも可能で、保管スペースの容積を小さくする事が出来るので積載効率が上がり物流や倉庫保管の経費削減に貢献します。

プラスチック段ボール

corrugated plastic board



繰り返し使用されるリターナブル容器が求められる中、耐久性、耐油性、耐薬性等に優れ、さらに折畳み式もあり、物流費の削減を目指し、様々な用途に対応できます。また、短納期、小ロット生産が可能です。

コンピュータ化を押し進めた設備。

高品質と低コストを両立させるために、ダイナパック・グループでは、生産工程のコンピュータ化を最大限に押し進めています。段ボールシートの製造を行うコルゲートマシンをはじめ、フレキソ印刷機、オフセット印刷機など、さまざまな生産設備がコンピュータで精密に制御され、生産効率を大幅にアップ。さらに、これらの機械をネットワーク化したリアルタイムシステムを構築し、受注から生産・出荷までの省力化を進めています。

コルゲータ

corrugator

段ボールシートは、コルゲートマシンで波形の中芯原紙と表面の原紙を糊で接着させることによって製造されます。使用する用途や目的によって段ボールは波形の高さ（段ボールシートの厚み）と段山数（波型のピッチ）が異なりますが、ダイナパックで生産される段ボールは大きく5種類に分類されています。



フレキソ印刷機

flexography machine

フレキソ印刷は、弾力性のある樹脂凸版に水性インキで、ダイレクトに印刷するため、平滑性が高くない段ボールにもフレキシブルに対応し、優れた印刷再現性を発揮します。ダイナパックでは、型抜き、接着、折り畳み、結束、パレタイズの工程をワンライン化することにより、効率的な生産に対応しています。



オフセット印刷機

offset printing machine

オフセット印刷は、フィルムを通してインクを印刷する、印刷精度の高い細密な方式です。通常4色(赤・青・黄・黒)で印刷され、写真や細かい文字などの表現に向いており、主にパッケージとしての機能と仕上がりの美しさが必要とされる印刷紙器で使用されています。



軟包装印刷機

gravure printing machine

段ボールや紙器のように硬い材質では、食品などをうまく個装できないので、柔らかいポリプロピレンなどのプラスチック素材が主に使用されています。香りを維持するためにPET素材のものや、遮光性を持たせるためにアルミ材質のものを使用する場合があります。



超大型デジタル印刷機 GIGA PRINTER Printed by Dynapac

digital printing machine

段ボール印刷の常識をくつがえす新型UV硬化型インクジェットプリンタで、最大1,600×3,200mmの大きな段ボールシートに1枚からカラー印刷が可能です。小ロット、テストマーケティング、パーソナライズに対応し「速く・美しく・感動」をお客様に提供します。



地球のニーズを満たす、環境への取り組み。



地球の環境への配慮と支援

ダイナパック・グループは、地域に密着した環境方針を持ち、その実行に常に取り組んでいます。また、資源の再利用やリサイクルについて、行政と生活者や地方自治体と民間企業とが連携し、地に足のついた運営を行うために、行政機関と市民生活を結ぶ活動（エコマーク推進協議会、グリーン購入推進など）を支援しています。



環境にやさしい製品づくり

生産システムだけでなく、そこから生み出される製品に関しても、徹底した環境への配慮を行っています。原料として古紙を最大限に利用し、リサイクル可能なパルプ素材を使って新しい緩衝材やクッション袋を開発するなど、地球のニーズを満たすさまざまな新製品を、世の中に送り出し続けています。



JQA-2420

登録活動：段ボール製品・紙器・紙製緩衝材及び軟包装材の設計・開発、製造、及び販売

登録拠点：ダイナパック(本社・東京営業所・みよし事業所・つくば事業所・川越事業所・静岡事業所・福島事業所・松本事業所・釧路事業所)、土岐ダイナパック(中津川工場を除く)



JQA-EM0697

登録活動：段ボール製品・紙器・紙製緩衝材及び軟包装材の設計・開発、製造、セットアップ及び販売

登録拠点：ダイナパック(本社・東京営業所・みよし事業所・つくば事業所・川越事業所・静岡事業所・福島事業所・松本事業所・釧路事業所)、土岐ダイナパック(中津川工場を除く)、宮城ダイナパック(登米工場・古川工場)、宇都宮ダイナパック、沼津ダイナパック、神原段ボール、多治見ダイナパック

国際規格に適合したシステム

ダイナパック・グループは、環境に関する国際規格であるISO14001および品質に関する国際規格であるISO9001を認証取得しています。開発・設計から生産・販売までの全てのプロセスが、地球環境にやさしく、なおかつ、高品質の製品を生み出すのにふさわしいシステムであると認められました。



責任ある森林管理のマーク

認証書番号：SGSHK-COC-350078
ライセンス番号：FSC® C133099
認証対象製品：段ボール製品、紙器製品
認証対象拠点：下記
認証審査機関：SGSジャパン株式会社

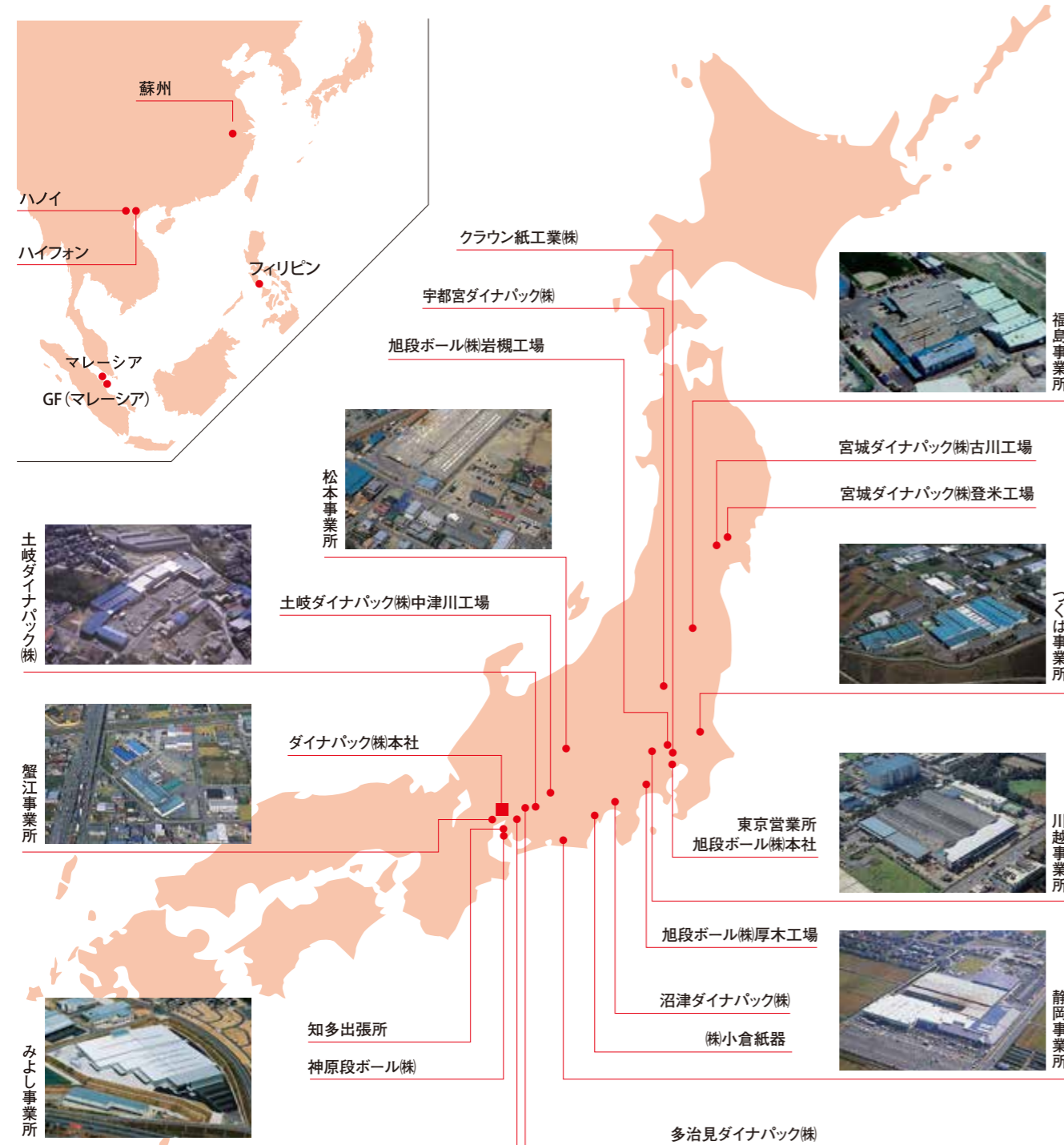
認証対象拠点：本社、東京営業所、みよし事業所、知多出張所、つくば事業所、川越事業所、静岡事業所、福島事業所、山形出張所、松本事業所、釧路事業所、土岐ダイナパック、土岐ダイナパック(中津川工場、宮城ダイナパック登米工場、宮城ダイナパック古川工場、宇都宮ダイナパック、沼津ダイナパック、神原段ボール、多治見ダイナパック、中津川物流センター、クラウン紙工業)

FSC® 認証

FSC® 認証制度とは、森林の管理や伐採が、環境や地域社会に配慮されているか信頼できるシステムで評価認証し、その森林から生産された木材、木材製品(紙製品を含む)に認証マークをつけ、市場に流通させている制度です。ダイナパック・グループでは、認証を受けた原料を使用した包装資材を提供することが可能です。

国内・海外に広がる、 ダイナパック・グループのネットワーク

ダイナパック・グループには、より幅広く、より迅速にお客様のニーズに対応するために、お客様の生産拠点の近くに事業所があります。東海エリアを中心とした関東・東北の国内拠点に加え、中国・マレーシア・ベトナムにも事業所を置き、海外生産拠点でのニーズにもお応えしています。



[国内事業所 7 国内グループ会社 9 海外グループ会社 6]

会社概要 company profile

- 社名 ダイナパック株式会社 ●英文社名 Dynapac Co., Ltd.
- 設立 2005年(平成17年)1月 ●本社 〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目14番15号
- 資本金 40億円 ●従業員数 680名 グループ全体 2,307名 (2020年12月現在)
- 事業内容 段ボール、印刷紙器、軟包装材料および紙製緩衝材などの包装資材の販売
- 主要取引先 JA、食品メーカー、飲料メーカー、農産物・青果物関係、家電メーカー、自動車関係、OA機器メーカー、アパレルメーカー、コンピュータソフト会社など多数

沿革 history

ダイナパック

- 2005年 1月1日 経営統合によりダイナパック株式会社設立
- 2006年 6月 ベトナムハノイ市に合弁会社ニュートヨーダイナパック設立
- 2007年 12月 ニュートヨーダイナパックを100%子会社化しダイナパック(ハノイ)に社名変更
- 2009年 5月 みよし事業所開設
- 2009年 7月 多治見ダイナパック株式会社設立
大日本紙業株式会社と株式会社ディー・ピー・エスを合併(存続会社 大日本紙業株式会社)
- 2010年 1月 株式会社東装を吸収合併
- 2010年 7月 大日本紙業株式会社、日本ハイパック株式会社、東日本ハイパック株式会社および新日本ハイパック株式会社を吸収合併
- 2010年 10月 山形ハイパック株式会社を吸収合併
- 2014年 6月 ダイナパック(フィリピン)設立
- 2014年 8月 ダイナパック(ハイフォン)設立
- 2016年 7月 クラウン紙工業株式会社を子会社化
- 2018年 7月 旭段ボール株式会社を子会社化
- 2019年 4月 GRAND FORTUNE CORPORATION SDN. BHD. を子会社化
- 2019年 9月 GRAND FORTUNE CORPORATION SDN. BHD. をダイナパックGF(マレーシア)に社名変更
- 2020年 1月 株式会社小倉紙器を子会社化

大日本紙業

- 1962年 8月 三和印刷株式会社と堤紙工株式会社との合併により設立
- 1963年 10月 千葉県柏市に東京工場が完成
- 1966年 2月 愛知県海部郡に蟹江工場が完成
- 1974年 6月 サン興業株式会社設立(現サン・パッケージ株式会社)
- 1976年 2月 茨城県つくば市に茨城事業所が完成
- 1976年 7月 名古屋証券取引所市場第二部に株式を上場
- 1977年 5月 カゴメ家具株式会社を子会社化
- 1987年 3月 企画開発室を東京・名古屋に開設
- 1990年 3月 株式会社トーカイシステム設立
- 1993年 10月 東京証券取引所市場第二部に株式を上場
- 1995年 10月 サン・プリプレス株式会社設立
- 1995年 11月 蘇州太陽包装有限公司設立
- 1996年 9月 株式会社東装を子会社化
- 1999年 7月 大府事業所でISO14001認証取得
- 1999年 8月 関東事業所で環境マネジメント・システムISO14001認証取得
- 2000年 7月 大府事業所で ISO9002認証取得
- 2000年 8月 大高事業所で ISO9001認証取得
- 2000年 8月 蟹江事業所で ISO9002認証取得
- 2000年 12月 神原段ボール株式会社を子会社化
- 2001年 3月 株式会社ユニオンパックを子会社化
- 2001年 3月 日本ハイパック株式会社と業務提携および資本提携
- 2002年 1月 新生パッケージ株式会社を子会社化
- 2003年 1月 サンパッケージ株式会社とカゴメ家具株式会社を合併(存続会社 サン・パッケージ株式会社)
- 2003年 1月 株式会社ユニオンパックと新生パッケージ株式会社を合併(存続会社 株式会社ユニオンパック)
- 2003年 7月 株式会社ユニオンパックと株式会社トーカイシステムを合併(存続会社 株式会社ユニオンパック)
- 2004年 6月 サン・プリプレス株式会社と日本ハイパック株式会社の製版部門と事業統合し、株式会社ディー・ピー・エスを設立

日本ハイパック

- 1950年 12月 恵那市にて創業
- 1960年 9月 春日井市に名古屋工場を新設、操業開始
- 1963年 5月 松本市に新日本ハイパック松本工場を新設
- 1964年 12月 川崎市狭山工業団地に東京工場を新設
- 1966年 完全耐水性段ボール「ユニコンテ」開発
- 1968年 2月 福島市に東日本ハイパック福島工場を新設
- 1969年 強靱段ボール「ケミコンテ」開発
- 1972年 「インテリアふすま」開発
- 1974年 5月 静岡県に静岡工場を新設
- 1984年 9月 多治見市に多治見工場新設
- 1984年 9月 神奈川県に厚木工場新設
- 1986年 名古屋・東京両工場で「PM優秀事業所賞」受賞
- 1988年 静岡・福島両工場で「PM優秀事業所賞」受賞
- 1991年 5月 名古屋証券取引所市場第二部に株式を上場
- 1991年 無公害緩衝材「ハイモール」開発
- 1992年 紙製パレット「ハイレットMAX」開発
- 1993年 11月 ニッポン・ハイパック(マレーシア)設立
- 1994年 6月 テクノロジーセンター新設
- 1994年 7月 ハイパック(香港)設立
- 1996年 2月 ニッポン・ハイパック(タイランド)設立
- 1998年 国内主要7事業所でISO9001認証取得
- 2000年 2月 国内主要8事業所でISO14001一括認証取得
- 2000年 葦を原料とした「ベバレ(紙製トレイ)」開発
- 2000年 紙製クッション袋「ハイクッション」開発
- 2001年 3月 大日本紙業株式会社と業務提携および資本提携
- 2003年 3月 中国に亦普(上海)包装技術有限公司設立

